

学校教育目標	『見つめ、認め、ともに生きる』 ○生活を見つめ、意欲をもって粘り強く学び続ける子を育てます。(知) ○多様性を認め、尊重し、自他ともに大切にすることを育てます。(徳) ○自らの健康を見つめ、たくましい心身をつくる子を育てます。(体) ○舞岡を愛し、ともに生きるすばらしさを感じる子を育てます。(公) ○社会を見つめ、社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます。(開)			
	創立 40 周年	学校長 田中 秋人	副校長 勝村 佑輔	2 学期制 一般学級：14 個別支援学級：3
学校概要	児童生徒数： 373 人 主な関係校： 舞岡中学校・柏尾小学校・東戸塚小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	舞岡中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
・表現する力 ・互いの価値を認め合う力 ・協働する力	舞岡中学校 舞岡小学校 柏尾小学校 東戸塚小学校	主体的な学びを通して地域を愛し、命、心、夢を大切に成長する子ども ○主体的・対話的な学びを積極的に展開し、小中が連携・協働して深い学びを推進する。 ○思いやりの心を育てる学びを学校の教育活動全体を通じた道徳教育で取り組み、小中合同研修等で連携して推進する。 ○夢を実現するための学びを、小中一貫すべての教育活動から推進する。

中期取組目標	・言語活用力を身に付け、表現する姿勢を育てます。 ・互いのよさを認め、伝え合う姿勢を育てます。 ・人とのつながりを大切にし、自ら世界を広げていく子を育てます。
--------	---

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	協働的・主体的な学びを引き出し、学ぶことの楽しさやわかる喜びを感じながら学び続けていく力や態度を育む。 ①学習のめあてを焦点化・明確化し、児童と指導者が共有する学習を展開する。②子ども自身が学力の向上を実感できる評価やスキル学習を取り入れていく。③重点研究を中心にして、誰もが「わかった」と実感できる授業づくりを目標に授業改善を図る。④個に応じた学びを形成していくために教科担任制やGIGA端末を有効に活用する。
担当	学力・評価部	
徳	人権教育	人とのつながりを感じ、互いのよさを認め伝え合いよりよく関わろうとする心を育てるようになる。 ①道徳教育を要として、学校教育全体を通して一人ひとりの違いを尊重し、自分の思いを安心して表現できる学校づくりを行う。②挨拶(特に登校下校時)に力点を置いて、心が通うつながりを育てる。③毎年テーマを決めて行う講演会や体験を通して人権週間の取り組みや、中学校と一緒に「横浜子ども会議」の取り組みを通して、人権意識を高める。④YP指導プログラムを実施し、互いを認め合う雰囲気醸成を図る。⑤「マイコンサート」における合唱合奏の練習や鑑賞を通して互いの良さを認め合う心情を育てる。
担当	人権部	
体	健康教育	自分の体力向上や食育、健康についての関心をもち、健やかな心身を育てるようになる。 ①日々の教育活動を通して、生涯にわたって心と体の健康の保持増進を図ろうとする姿勢を育てる。②委員会活動や学校保健委員会を主体として、自身の健康や体力について見つめ直し、継続的な活動を通して児童の心身の健康と運動習慣の定着につなげる。③自分の体や食に関することについて、児童とともに考え、職員間で情報交換などをしながら学級経営に生かせるよう努める。④普段の授業や40周年記念運動会をとおして、自分の健康や体力についての関心をもち、目標をもって取り組めるようになる。
担当	体育部、保健・食育部	
公開	自分づくり教育	自分の力を信じて、教育活動に意欲的に取り組む力を身に付けるようになる。 ①学習や活動にめあてをもって取り組み、成果を発表し他学年と見合うことで、自分の成長を感じたり新たな目標をもったりできるような機会をつくっていく。②子ども自身が、まちのひと・もの・ことと関わりながら自分を見つめ、学び進めていけるような活動を取り入れていく。③架け橋プログラムを具体的にしながら、幼児期で培った力を土台にした学びをつくっていく。④小学校での学びを生かし、なりたい自分を目指せるように、中学校と連携を図っていく。
担当	特活部	
いじめへの対応		いじめの早期発見、実態把握のために、組織的体制や職員全体の共有、家庭や関係機関との連携を行い、誰もが安心して学べる学校の実現を図る。 ①「いじめ防止基本方針」をもとに、いじめ防止への意識を全職員、児童、保護者と意識を共有していく。②「いじめ防止対策委員会」では、SCなどの関係機関とともに、組織的に情報集約・情報共有を確実に行う。アセスメントシートの情報などをSC、SSWなどの関係機関と共有し方針検討に活用する。③アンケートや子ども面談を行い、トラブルの早期把握・対応を図る。④いじめが疑われる事案発生の場合は「いじめ防止対策委員会」を即時に開き事実把握と方針検討を役割分担を行う。⑤いじめに関わる研修を行い、職員の資質や専門性を高める。
担当	児童指導部	
人材育成・組織運営(働き方)		児童への指導と教職員の生活の充実の双方の両立をめざして、働き方改革を進められるようになる。 ①チーム担任制の推進により、教務部及びブロックリーダーを中心に学年の枠を超えて教育DXを活用し情報共有することで、カリキュラムマネジメントや児童理解を広げながら指導力向上に努める。②日々の授業や重点研やメンター研の研究授業も加えて、授業づくりについて学び続ける組織運営を行う。③各部会の主任に、次の学校の中核を担う教職員を配置し、担当教務部がオブザーバーとして補佐していくことで、組織的な人材育成を図っていく。
担当	教務部	
交流活動		人とのつながりを大切にし、自分にできることを探したり友達とのよさに気づいたりできるようにする。 ①学級・学年内での自分の役割を自覚し、集団の一員として協働できるようにする。②学年の枠を超えて、いろいろな学年間でのつながりを大切にし、学習の成果を伝えたり一緒に活動したりできるように計画する。活動のめあてを意識しながら、自分の学年の頑張りを伝えたり他学年のよさを見つけたりできるようにしていく。③異学年の友達との関わりを楽しみながら、各学年の目標を意識して活動できるように指導する。遊びや掃除、YPなどの活動を通して、児童同士が互いを認め合える時間を確保する。④幼稚園、保育園、中学校等と連携し、交流事業を進めていく。⑤地域の行事に参加したり、人との交流を大切にしたりする。
担当	なかマイ部	
特別支援教育		「誰ひとり取り残さない教育」のために、組織的な特別支援の実現を図る。 ①児童理解・YP・不登校・特別支援などの研修を年間を通して行い、職員全員の資質能力を高める。②個に応じた指導や登校支援の場として特別支援教室(チャレンジ教室)を設置し、意義を伝えて理解を図り、児童や保護者の安心を担保する。③一人ひとりのニーズに応じた個別的教育支援計画・指導計画の作成を活用する。④個別支援学級と一般学級の児童生徒における交流及び共同学習での連携と支え合う心情の育成を図る。
担当	児童指導部(特別支援)	
安全教育		「自分で考え、行動する」という意識を高める ①火災・地震・不審者等に対する訓練を計画的に実施する。②年度初め及び定期的に、登校班班長会議を定期的にもち、登校班のルールを確認し、声を掛け合いながら安全に登下校ができる体制をつくる。③交通や防犯・SNSトラブル等について、児童の発達段階に応じた講習を行い、安全や防犯について周りと協力しながら行動する意識を高める。
担当	防災・安全部	
地域学校協働活動		学校説明会や懇談会などで、地域・保護者の方々に学校経営方針を丁寧に示し、学校を中心に連携を深めながら教育活動を進めていく。また、地域の人材を活用して、学校と地域が連携して学習を進めていく。 ①地域の行事に対して学校が協力できることを考え、児童が地域社会とつながる機会をつくる。②学校運営協議会を活用し、地域との協働的な学びの機会や地域と保護者の連携を図れるようにする。③学校地域コーディネーターを中心とした地域学校協働本部(マイビークラブ)とともに40周年の教育活動を充実させていく。地域の材を40周年記念行事等の教育活動へ取り入れていく。
担当	教務部	